

(秋の交通安全祈願祭・町民大会祝辞：H23・9・21)

秋の交通安全祈願祭、町民大会にこのように多数の参加をいただき大変ご苦労様です。

日頃から交通安全運動の推進にそれぞれの立場でご尽力を頂いておりますことにつきまして、感謝の気持ちを込めて敬意を表したいと思います。

今月初めに、私も免許書の更新時講習を受けてきました。

5年ぶりということもあって、あらためて安全運転をしなければとの思いを強くしましたし、罰則の改正等、分からなかったことが多く反省も致しました。

ビデオで悲惨な交通事故の様子も見せていただき、被害者はもちろん、加害者もまた悲しい事となる実体を強く感じました。

交通事故死のピークは、昭和46年(1971年)で、今から40年前です。

全国では、16,765人と大変な犠牲者の数です。昨年は4,863人と約30%に減少しております。

北海道では、889人とこれも大変な数ですが、昨年は215人と25%以下に減っております。

道路網の整備、車両の改良等、安全を重視したいろいろな取組みの影響もあるでしょうが、全国で展開されている、今日のような交通安全の啓発運動を地道に続けてきた成果だと思えます。

しかし、未だに交通事故が多く、年間90万人を超える死傷者が出ている状況が続いているのも事実です。

新聞、テレビでは毎日のように、交通事故死が報道されております。飲酒、居眠り運転、暴走運転によるもの、わき見運転や、ちょっとした油断での事故等、依然として犠牲となるのは、交通弱者である子供たちや高齢者です。特に子供たちの事故は、大きな悲しみとして影響も大きく、私たち大人が守ってあげなければなりません。

運転手、ドライバーが交通安全の意識をしっかり持たなければならない事は第一ですが、家庭、地域、職場、学校、PTA等、関係機関が一丸となって本日のような運動を積み重ねていく事が、交通安全運動の推進に大切な事だと思います。ご出席の皆様には、引き続きご尽力下さいますようお願いをいたします。

ご出席の皆様のご健勝と、事故、事故死がおきませんよう心からご祈念をいたしまして、挨拶といたします。本日は、大変ご苦労様でした。